

初期投資0円で 太陽光発電の普及促進を

東日本大震災と東京電力・福島第1原発の事故は、原発依存のエネルギー政策の危うさをもっとも深刻なかたちで国民の前につけました。

原発からの撤退と再生可能エネルギーへの転換が求められています。そのうちの1つの形態である住宅用太陽光発電システムの普及促進の必要性が高まっています。

地元信用金庫も協力

長野県飯田市では、市と「おひさま進歩エネルギー(株)」、飯田信用金庫の3者が共同して太陽光発電の普及に取り組んでいます。

「関心があっても、設置費用が高くて導入できない」という家庭が多



い中、「初期投資を0円」にして設置のハードルを下げるものです。

0円になる仕組みは、太陽光発電の設置を希望する住民に対し、おひさま進歩が地域の事業者を通して「無料」で太陽光パネルを設置(3.5キロワットの標準サイズで約200万円)、信金はおひさま進歩に低利融資(170万円)し、加えて市が独自の補助金(30万円)を同社に交付するものです。



市議 東 よしき

売電収入で返済

その後、設置家庭はおひさま進歩に対し9年間月々定額の19,800円(総額210万円)を電気料として払います。10年目以降は設備は住宅所有者のものになり、発電分は全て設置家庭の収入となります。毎月の電気代が約2万円といえは割高感がありますが、電力会社への売電収入が生まれるので、実質的な負担は低額に。

江南市でも太陽光発電の普及促進を図るため、現在利用者がほとんどない市の「勤労者住宅資金融資制度」の「預託金」を活用して市独自の「太陽光発電設置資金融資制度」(仮称)を実施するよう要求しました。市は先進事例を調査したいとの答弁でした。

子ども・子育て新システムと 保育行政の充実について



市議 森 ケイ子

政府が進める新システムは、最も要望の強い3歳未満児の待機児解消にはならず、民間企業の参入を容易にし、保護者と事業所との個々の契約になるなど公的責任を後退させることになることは明らかです。市として反対を表明すべきではないかと質しました。

また、特別保育の実施園を増やすよう改めて提案しました。

新システムは、未定の部分も多く現状で見解を述べることは難しい、国の動向を見守りながら慎重に検討していきたいとの答弁でした。

また、障害児保育は宮田保育園で、0歳児保育は古知野西保育園とともに24年度から実施しますとの答弁がありました。



一時保育については、布袋地域の保育園に余裕の保育室がなく難しいとのことなので、現在実施している保育園の定員を増やし、要望に応えられるよう主張しました。

市民の生活に寄り添う相談窓口を!

市税や保育料、給食費などの滞納が増加しています。滋賀県野洲市では、国保税や市税の滞納の背景にある多重債務の解決をすすめ、生活再建と滞納の克服を同時に進めることができる「多重債務者包括的支援プロジェクト」体制で、2006年から市役所内の関係するすべての機関が連携し体制が取られてきました。2011年には国のパーソナルサポートサービス(総合生活相談窓口)のモデル自治体として指定されたとのこと。

江南市でも、市民相談室に、嘱託だけでなく専任の職員を配置し、市税などの滞納の背景にある失業や多重債務の解決などに積極的に対応すべきではないか、早急に計画を立て進めるよう提案しました。

今後も市民相談室を中心に各課連携で対応するようにし、弁護士などの専門家とも連携を図っていきたいとの答弁がありました。

ごみ減量を正面にすえ、 住民合意で一からやり直しを …新ごみ処理施設建設

ゆきづまった新ごみ処理施設問題を、住民と行政の信頼関係をとりもどし早く解決するために、日本共産党の江南・犬山・扶桑・大口2市2町の議員団は、1月に第1小ブロック会議会長の扶桑町長に対し申し入れ書を提出。一般質問ではこれに対する堀市長の見解を質しました。

この事態を招いた原因と責任は

候補地選定では、各市町1か所の抽出時から地元説明をせずに上から押し付け、犬山市の1か所に絞り込んだ後も、地元の了解は得られず膠着状態が続いています。その上、堀市長の白紙撤回発言で4首長の足並みの乱れが生じました。



「道に迷ったら、元に戻る」ことが解決の早道。市長が発言を撤回して4首長の足並みを元に戻し、その上で候補地選定を一からやり直す決断を下すことが必要ではないでしょうか。

また新施設建設を、ごみ減量を推進し、住民と行政の協力をすすめる契機とするべきと、具体的に3点を提案。

①「実施計画」を規模を縮小したものに策定し直す。②候補地選定は、情報を十分に公開しながら住民合意のもとで一からやり直す。③処理方式は、ごみ減量に逆行せず、安全で安定した稼働が見込め、財政負担の少ない方式を選定する。以上を一体的に住民参加で進めるべきと、先進地の事例を示しながら強く求めました。

しかし市長答弁では、住民無視の候補地選定を行ったという認識も、住民の信頼を失ったことへの反省も全くありませんでした。

その他 使用料手数料の値上げ問題、巡回バスの検討状況についても質しました。



市議 かけの 掛布まち子